

令和7年度 星翔高等学校 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

これまで培ってきた伝統や教育活動を踏まえ、多学科を有する総合学園の強みを生かし、中学生の興味・関心、適性に応じた多様な学びの入り口を提供し、スローガン（標語）である「笑顔輝く学園！」を掲げ、基礎学力、規範意識を基底とした以下の学力・能力・技能等を個に応じた指導で身につけさせる。

	工業技術系 4 工学科	普通科 3 コース			国際科 1 コース
	機械、電子機械、 電気、コミュニケーションシステム	特進アドバンス	総合キャリア	アスリート	スポーツ
育成したい 学力・能力・技能等	・「ものづくり」の幅広い知識と専門的な技術・技能 ・勤労観・職業観、工業人としての高い倫理観	・大学受験勉強、準備等を通じて育成される自己理解・自己管理能力 ・難関大学に合格するための自学自習力、学力	・大学、専門学校、企業と連携した様々なキャリア体験により培われる進路選択力 ・探究学習等を通じて育成される主体的に学ぶ力、対話力	・スポーツに関する専門知識や技術、競技力 ・スポーツを通じて育成される礼節を身につけた人間力	・国際理解 ・スポーツ技術・技能 ・部活動等を通じて育成される人間力
基礎学力・規範意識（基本的生活習慣）					
進路	大学（理工学系） 就職、専門学校	四年制大学等	大学、専門学校 就職	大学（体育系）、専門学校 就職	大学（体育系）、専門学校 就職

*普通科アスリートコースは、令和6年度開設（国際科スポーツコースは、募集停止）。

2 中期的目標

I. 確かな学力の育成と授業改善

(1) 基礎的・基本的な学力の定着と授業力の向上

ア 教員相互の授業見学や研究授業、生徒の授業評価等を活かし授業力の向上に取り組む。

イ ICTを活用した効果的な授業展開を推進する。

ウ 「まなびサポートスペース」を活用するなどの自主学習を支援し、学習意欲と学力の向上をめざす。

*学校教育自己診断（生徒）の「授業はわかりやすい」について、肯定率70%以上をめざす。

*学校教育自己診断（教職員）の「コンピュータやひとり1台端末などのICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率75%以上をめざす。

(2) 「ものづくり教育」の充実

ア 幅広い知識と専門的な技術・技能及び勤労観・職業観を身につけさせるため、大学、企業等との連携を推進するとともに、実習授業のさらなる充実を図り、資格に挑戦できるよう学習支援体制を整える。

イ 「ものづくり教育」のさらなる充実、魅力化をめざし、工業各工学科の教育課程の精査、再編整備の検討を進める。

*インターンシップ参加生徒数30名以上をめざす。

*資格取得を奨励し、全国工業高等学校長協会（全工協会）で資格取得に応じて点数化されて、その合計点により顕彰されるジュニアマイスター制度を奨励し、特別[T]・ゴールド[G]・シルバー[S]・ブロンズ[B]の取得者合計数10名以上を維持する。

*星翔高校ドローンスクールと連携し、2等無人航空機操縦士資格取得を増加させる。

*理工学系大学進学等により一層対応できるよう教育課程の見直し等を行う。

II. 夢と志を持つ生徒の育成

(1) 基本的生活習慣の確立と定着

ア 挨拶や時間厳守、交通マナー、事故防止などの指導、啓発を通じ、意識向上と基本的生活習慣の確立を図る。

*年間遅刻回数一人あたり5回以下をめざす。

*転退学率4%以下をめざす。

*学校教育自己診断（生徒）「学校生活について先生の指導は納得できる」の肯定率70%以上をめざす。

(2) 豊かでたくましい人間性の育成

ア 授業・HR活動を通して、他者を理解し尊重する心や態度を養う。

イ いじめ対応や支援教育充実のために教育相談体制の充実を図り、学習支援活動を通じて、生徒の学びを支える。

*学校教育自己診断（生徒）の「先生は、いじめについて、私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率75%以上をめざす。

*学校教育自己診断（生徒）の「担任の先生以外にも、気軽に相談することができる先生がいる」の肯定率80%以上をめざす。

(3) 部活動や学校行事等の充実

ア 主にアスリートコースの生徒が所属する推薦クラブを核に部活動のさらなる充実、改善を進める。

イ 文化祭（星翔祭）・体育大会等の行事の充実、改善を進める。

(4) 3年間を見通したキャリア教育と進路指導

ア 生徒が自分にふさわしい目標を立て、第一希望の進路実現ができるよう分掌・学年・教科の連携を深め、指導の充実を図る。

イ 就職・進学希望者等の多様な進路希望の実現を図るため、きめ細かな進路指導を行う。

ウ 大学受験対策委員会による進学希望者に対する支援体制を強化するとともに、普通科特進アドバンスコースの指導充実を図り、難関大学への進学実績をあげる。

*学校教育自己診断「進路に関する行事の充実」80%以上を維持する。

*就職希望者内定率・大学進学希望者決定率100%をめざす。

*国公立1名以上、関関同立2名以上、産近甲龍4名以上の延べ合格者を出す。

III. 信頼される魅力ある学校づくり

(1) 地域等との連携・つながる力の育成

ア 部活動や生徒会活動を通して、地域貢献活動を推進し、自己有用感を醸成する。

イ 大学、専門学校等との連携・協働を継続発展させ、自己実現につながる探究心と創造力を育む。

(2) 広報活動のさらなる充実

ア 出前授業、学校説明会、HP更新等で魅力発信を強化し、志願者増加を図る。

*入学定員充足を維持する。

(3) 働き方改革の推進

ア 校内業務の精選と組織分掌等の再構築を推進する。

イ 情報の共有化、迅速化を図り、課題解決に向けて教職員が一丸となれる職場環境をつくる。

*分掌、委員会の再編整備、スリム化実現。

*勤怠管理システムを適切に運用し、時間外勤務者のうち月60時間以上を縮減。

	重点目標	具体的な取組み	評価指標	自己評価
I 確かな学力の育成と授業改善	(1) 確かな学力の育成と授業改善 (2) ものづくり教育の充実	(1) ア 「主体的・対話的で深い学び」を促進するための研修や授業見学の実施を推進する。 イ ICTを活用した効果的な授業展開を推進する。 ウ 教員相互の授業見学の活性化により、授業力の向上を図る。 エ 授業研究ウェブサービスを教員の研修に活用する。 オ 保護者等の授業参観を実施する。 (2) ア 国家資格を中心とした様々な資格取得指導を組織的に進め、達成感、成就感を醸成し、生徒の付加価値を高める。 イ 工業科実習室の整備、教育課程の検討を進め、デジタル機器の導入による教育活動を充実させる。	(1) ア ・ 学校教育自己診断「授業はわかりやすい」70%以上[68.1%]。 イ ・ 学校教育自己診断（教職員）「ICT機器を活用した授業」65%以上[62.5%]。 ウ ・ 1人1台端末の効果的な活用を実施している授業を研究授業として年2回実施する。 エ ・ 各教員1回以上の活用の維持。 オ ・ 保護者150人以上の参加維持[180人]。 (2) ア ・ ジュニアマイスター顕彰者数、3年平均実績以上[特別(T):0.7、ゴールド(G):2.3、シルバー(S):4、ブロンズ(B):7.3]。 イ ・ DXハイスクール事業の採択及び機器導入。	(1) ア ・ 69.4% (△) イ ・ 56.1% (△) ウ ・ 9月の授業見学週間で1回実施 (△) エ ・ 夏期休業中の教員研修中心に全教員が活用 (○) オ ・ 234人参加。(◎) (2) ア ・ 特別(T):0、ゴールド(G):1、シルバー(S):5、ブロンズ(B):12 (○) イ ・ DXハイスクール事業は不採択。機械工学・電子機械工学科について、実習・専門性を強化し、実践重視の教育課程へ再編(R8年度より適用)。また、工業科共通で理系大学進学に対応するためのR9年度に向けた育課程改編案を調整中 (△)
	II 夢と志をもつ生徒の育成	(1) 基本的な生活習慣の確立と定着	(1) ア 無遅刻週間等の取組みにより、遅刻数の削減を図る。 イ 集会時や日々の学校生活における啓発に加え、立ち番指導等を推進し、問題行動防止に努める。 ウ きめ細かな生徒指導、学習指導により転退学率の減少を図る。 エ 特別支援教育コーディネーターを中心に臨床心理士、関係教員の連携を進め、支援を必要とする生徒に対する教員による相談対応の充実を図る。	(1) ア ・ 一人あたりの遅刻数7回以下[7.7] イ ・ 問題行動年間指導件数15件以下[19件] ・ 学校教育自己診断(生徒)「学校生活について先生の指導は納得できる」の肯定率65%以上[3年平均64%] ウ ・ 転退学率5.5%以下[6.2%]。 エ ・ 学校教育自己診断(生徒)「いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率70%、「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」75%以上[66.4%、71.8%]。
(2) 部活動や学校行事等の充実		(2) ア 各種大会等へ参加し、上位入賞をめざす。 イ 生徒会等を中心とした学校行事の主体的な運営を推奨する。	(2) ア ・ 大会等の具体的成果 イ ・ 学校教育自己診断の星翔祭や体育大会に関する肯定率75%以上の維持。[星翔祭78%、体育大会75.7%]。	(2) ア ・ なぎなた：全国大会出場 ・ 電気自動車研究：2025エコデンレース全国大会 総合4位入賞 Ene-1 SUZUKA Challenge Div-1 高等学校クラス4位入賞 ・ 男子バレーボール、男子卓球：近畿大会出場等 (○) イ ・ 星翔祭77.6%、体育大会75.0% (○)
(3) 3年間を見通したキャリア教育と進路指導		(3) ア 生徒の自己実現に向けた取組みを支援するため、進路3カ年計画に基づき、指導の充実を図る。 イ 就職希望者の進路実現に向け、きめ細かな指導を行い、就職一次合格率、内定率の向上を図る。 ウ 大学進学希望者の進路実現に向け、大学受験対策委員会、分掌・学年・教科の連携を深め、きめ細かな進路指導を行い、進学先決定率を高めるとともに難関大学合格者を輩出する。	(3) ア ・ 学校教育自己診断「進路に関する行事の充実」80%以上の維持[81.2%]。 イ ・ 就職一次合格率90%以上[90%]。内定率100%の維持。 ウ ・ 大学進学希望者決定率100%を維持。 ・ 関関同立1名、産近甲龍3名以上の延べ合格者数。	(3) ア ・ 78.6% (△) イ ・ 一次合格率95%、内定率100% (◎) ウ ・ 97.2% (△) ・ 関関同立0名、産近甲龍3名 (△)
III 信頼される魅力ある学校づくり	(1) 地域等との連携	(1) ア 大学、専門学校、企業等との連携・協働を継続発展させる。 イ 清掃活動、地域との交流(イベントへの参加)等、社会貢献につながる活動に取り組む。	(1) ア ・ 総合キャリアコースにおけるキャリア選択授業の生徒授業アンケート肯定率回答85%以上を維持[2年89.5%、3年83.7%]。 ・ インターンシップ参加者数20名以上[19名]。 イ ・ 摂津市のボランティア活動に延べ70名以上参加[70名]。 ・ 地域との交流機会3回以上。	(1) ア ・ 2年78.1%、3年84.4% (△) ・ 9名 (△) イ ・ 65名 (△) ・ 生徒会を中心に、7つのイベント・行事に参加し、交流した (○)
	(2) 広報活動のさらなる充実	(2) 出前授業、学校説明会、HP更新等で魅力発信を強化し、志願者増加を図る。	(2) ア ・ オープンスクール来校者2回合計700組以上[680組] ・ 入学定員(335名)充足。	(2) ア ・ 561組 (△) ・ 316名 (△)
	(3) 働き方改革の推進	(3) ア 情報の共有化、迅速化を図り、解決に向けて教職員が一丸となれる職場環境をつくる。 イ 勤怠管理システムを活用し、適切な勤務時間の管理を図る。	(3) ア ・ 学年、分掌、科・コース等の会議の定期的開催。 イ ・ 時間外労働時間月45時間以上の縮減。	(3) ア ・ 学年会議は概ね定期的に開催され、学年内の情報共有は一定程度進んだ。一方で、分掌会議の開催頻度には部署間で差があり、全校的な情報の共有化・迅速化という点では改善余地が残る (△) イ ・ 2024年9月～12月と2025年の同時期を比較して、11%減 (○)

学校教育自己診断の結果と分析 [令和8年1月実施分]	学校関係者評価委員会からの意見																																																																																																																																							
<p>【生徒及び保護者】 令和7年度結果および令和6年度との比較（肯定率：よくあてはまる＋ややあてはまる） 回答数 生徒：R6：640人、R7：766人（＋126人） R7回答率97.1% 保護者：R6：568人、R7：648人（＋80人） R7回答率82.1%</p> <p>1. 総括 令和7年度は、生徒・保護者双方において学校への信頼感と満足度が総じて向上した。教員との関係性、生活指導、教育活動の充実に関する評価は4年間で着実に改善しており、本校の強みとして定着している。一部の項目で微小な増減は見られるが、全体としては高水準を維持している。</p> <p>2. 令和6年度→令和7年度の主な変化（生徒）</p> <table border="1" data-bbox="163 647 968 887"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>増減</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業がわかりやすい</td> <td>68.1%</td> <td>69.4%</td> <td>+1.3</td> <td>改善</td> </tr> <tr> <td>いじめ対応への信頼</td> <td>66.4%</td> <td>67.6%</td> <td>+1.2</td> <td>改善</td> </tr> <tr> <td>入学してよかった</td> <td>72.8%</td> <td>74.7%</td> <td>+1.9</td> <td>改善</td> </tr> <tr> <td>進路情報提供</td> <td>81.2%</td> <td>78.6%</td> <td>-2.6</td> <td>高水準維持（微減）</td> </tr> <tr> <td>資格取得支援</td> <td>64.7%</td> <td>63.4%</td> <td>-1.3</td> <td>横ばい</td> </tr> <tr> <td>学校が楽しい</td> <td>79.9%</td> <td>78.9%</td> <td>-1.0</td> <td>横ばい</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 令和6年度→令和7年度の主な変化（保護者）</p> <table border="1" data-bbox="163 952 1031 1258"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>増減</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活・規範教育</td> <td>64.6%</td> <td>70.5%</td> <td>+5.9</td> <td>大幅改善</td> </tr> <tr> <td>教育活動の努力</td> <td>67.7%</td> <td>73.4%</td> <td>+5.7</td> <td>大幅改善</td> </tr> <tr> <td>行事参加機会</td> <td>63.2%</td> <td>67.9%</td> <td>+4.7</td> <td>改善</td> </tr> <tr> <td>いじめ対応への信頼</td> <td>52.5%</td> <td>56.4%</td> <td>+3.9</td> <td>改善</td> </tr> <tr> <td>入学させてよかった</td> <td>83.7%</td> <td>85.2%</td> <td>+1.5</td> <td>高水準</td> </tr> <tr> <td>授業がわかりやすい</td> <td>63.0</td> <td>63.4</td> <td>+0.4</td> <td>実質横ばい（低水準）</td> </tr> <tr> <td>子どもは学校が楽しいと言っている</td> <td>78.7%</td> <td>77.3%</td> <td>-1.4</td> <td>高水準維持（微減）</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 今後の重点課題 ① ICT活用推進、教員相互の授業見学等、さらなる授業改善の取組強化 ② いじめ対応・生活指導の取組内容の共有強化 ③ 保護者会活動の認知度向上 ④ 進路・資格支援は高水準を維持しつつ継続的に改善</p> <p>5. まとめ 本校は『安心して学べる学校』『信頼される学校』として着実に評価を高めている。今後も強みを伸ばしながら、情報共有と可視化を進めることで、さらなる満足度向上を図っていく。</p> <p>【教職員】 令和6年度（48名回答）と令和7年度（66名回答）を比較。回答数増加に伴い統計的誤差（±5～10ポイント程度）が含まれる可能性があるため、小幅な増減は横ばいとして解釈している。</p> <p>1. 総括 令和7年度は、教育実践に関わる項目では改善が見られ、学校としての指導力・対応力は着実に向上している。一方で、教職員間の連携やコミュニケーションなど組織運営面に課題がある。個々の指導力は高まっており、今後は「組織力の強化」が主たる改善テーマだと考える。</p> <p>2. 肯定率比較（主要項目）</p> <table border="1" data-bbox="163 2006 1031 2407"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>増減</th> <th>評価（解釈）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日常的な話し合い</td> <td>75.0</td> <td>60.6</td> <td>-14.4</td> <td>回答数増に伴う揺れ</td> </tr> <tr> <td>相互理解・信頼関係</td> <td>33.3</td> <td>42.4</td> <td>+9.1</td> <td>改善</td> </tr> <tr> <td>評価→計画活用</td> <td>41.7</td> <td>36.3</td> <td>-5.4</td> <td>横ばい</td> </tr> <tr> <td>カウンセリングマインド</td> <td>37.5</td> <td>45.5</td> <td>+8.0</td> <td>改善</td> </tr> <tr> <td>進路きめ細か指導</td> <td>81.3</td> <td>77.3</td> <td>-4.0</td> <td>高水準維持</td> </tr> <tr> <td>分掌連携</td> <td>33.3</td> <td>28.8</td> <td>-4.5</td> <td>横ばい</td> </tr> <tr> <td>組織的生徒対応体制</td> <td>37.5</td> <td>56.1</td> <td>+18.6</td> <td>大幅改善</td> </tr> <tr> <td>情報周知</td> <td>52.1</td> <td>60.6</td> <td>+8.5</td> <td>改善</td> </tr> <tr> <td>授業工夫</td> <td>60.4</td> <td>66.7</td> <td>+6.3</td> <td>改善</td> </tr> <tr> <td>ICT活用</td> <td>62.5</td> <td>56.1</td> <td>-6.4</td> <td>横ばい</td> </tr> <tr> <td>職場相談関係</td> <td>47.9</td> <td>42.5</td> <td>-5.4</td> <td>横ばい</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 課題（構造的要因） 分掌間連携、職員間コミュニケーション、評価の活用、職場相談風土 これらは個人能力の問題ではなく、構造的課題と考えられる。「人」ではなく「仕組み」の改善が必要であると考える。</p> <p>4. まとめ 本校は教育実践面において着実な成果を上げている。今後は対話機会と連携体制の仕組み化により組織力を高めることで、より持続可能で強い学校づくりを進めていく。</p>	項目	R6	R7	増減	評価	授業がわかりやすい	68.1%	69.4%	+1.3	改善	いじめ対応への信頼	66.4%	67.6%	+1.2	改善	入学してよかった	72.8%	74.7%	+1.9	改善	進路情報提供	81.2%	78.6%	-2.6	高水準維持（微減）	資格取得支援	64.7%	63.4%	-1.3	横ばい	学校が楽しい	79.9%	78.9%	-1.0	横ばい	項目	R6	R7	増減	評価	生活・規範教育	64.6%	70.5%	+5.9	大幅改善	教育活動の努力	67.7%	73.4%	+5.7	大幅改善	行事参加機会	63.2%	67.9%	+4.7	改善	いじめ対応への信頼	52.5%	56.4%	+3.9	改善	入学させてよかった	83.7%	85.2%	+1.5	高水準	授業がわかりやすい	63.0	63.4	+0.4	実質横ばい（低水準）	子どもは学校が楽しいと言っている	78.7%	77.3%	-1.4	高水準維持（微減）	項目	R6	R7	増減	評価（解釈）	日常的な話し合い	75.0	60.6	-14.4	回答数増に伴う揺れ	相互理解・信頼関係	33.3	42.4	+9.1	改善	評価→計画活用	41.7	36.3	-5.4	横ばい	カウンセリングマインド	37.5	45.5	+8.0	改善	進路きめ細か指導	81.3	77.3	-4.0	高水準維持	分掌連携	33.3	28.8	-4.5	横ばい	組織的生徒対応体制	37.5	56.1	+18.6	大幅改善	情報周知	52.1	60.6	+8.5	改善	授業工夫	60.4	66.7	+6.3	改善	ICT活用	62.5	56.1	-6.4	横ばい	職場相談関係	47.9	42.5	-5.4	横ばい	<p>【第1回 委員会での意見】 ○ 中期的目標は、昨年度より項目が整理され分かりやすくなった点を評価する。一方で、各項目の内容が多岐にわたるため、重点の明確化が望まれる。 ○ 授業力向上・研究授業については、教科の違いを越えて共有できる共通テーマ（例：ICT活用の具体的効果、生徒の学習変容の視点）を設定し、校内で視点を統一した授業研究を進めることが有効である。 ○ ICT活用は機器使用自体を目的とせず、生徒の主体的・対話的で深い学びにつながったかという成果面で評価する指標の工夫が求められる。また、教職員自己評価の目標値設定については妥当性の再検討が必要である。 ○ DX ハイスクール事業等の外部要因に左右される指標は、実情に応じて柔軟に見直すことが望ましい。 ○ 遅刻回数については、健康上の要因等も含まれるため単純な数値評価には課題がある。年間総数だけでなく、取組の効果が見える方法（例：無遅刻週間等）による評価の工夫を検討されたい。 ○ 「大学進学希望者決定率100%」は達成が前提となりやすく、指標としての有効性について再考が必要である。 ○ 支援教育の充実を計画に明記した点は評価できる。相談体制の強化に加え、個別支援計画や具体的支援策、中学校との情報連携など、実効性ある取組の推進が望まれる。 ○ 働き方改革については、形式的な時間管理にとどまらず、教職員の健康確保の観点から実態把握と配慮を継続されたい。</p> <p>【第2回 委員会での意見】 1 令和7年度 学校評価に対する意見 ○ 教職員自己診断は回答率・回答者数（実数）や配付範囲が分かりにくい。常勤/非常勤の内訳、分母を明示してほしい。 ○ 生徒・教職員の回収率は原則100%をめざすべきで、教職員回収の方法改善が必要ではないか。 ○ ICT活用（目標65%に対し56%）が下がった理由、研究授業（年2回→1回）の未達理由を分析して示してほしい。 ○ ICT活用は「一斉授業」だけでなく、個別最適な学び等も含むのか。設問の解釈が狭い可能性がある。 ○ 機材不足、通信の弱さ、端末のセキュリティ制限等で「使いたくても使えない」状況があるのでは。 ○ ICT活用は自己評価だけだと乖離が見えにくい。生徒が授業内でどう使っているか等、実態が取れる指標が必要。 ○ 生徒自己診断にICT項目がない点も含め、項目の絞り込みと有効なデータ取得を両立すべき。 ○ 問題行動件数（33件）等は公表の仕方によって「しんどい学校」印象になり得るため、見せ方を工夫すべき。 ○ 生徒数増に伴い、問題行動・退学等が増え、指導時間が圧迫される。質を維持する体制が必要。 ○ 転退学の背景（不登校・成績不振、年度末の原級留置等）の見立てと対応方針を整理してほしい。</p> <p>2 令和8年度学校経営計画に対する意見 ○ 新たに追加した学校方針（キーワード）が、言葉を並べただけでは分かりにくい。箇条書き等で補足しては。 ○ 新たな学校方針は重要点を文章として明確に述べた方がよい。 ○ 中学生向けの表記（学びへの入口提供等）は削除した方がよいのでは。 ○ 自己診断項目が少なく計画評価に使にくい。表現や項目の改善を検討しているか。 ○ 生活指導（遅刻・問題行動・転退学）を「減少」とするなら、指標の設計を丁寧に行う必要がある。 ○ 生活習慣の確立・定着の進め方の判断材料として、どの評価を残すか整理が必要。 ○ 生徒が納得できる指導の指標は重要。学校が楽しいにつながる取組も必要。 ○ 進路希望者支援体制の指標（表現）がこのままでよいか。具体的な表記例も示してほしい。</p>
項目	R6	R7	増減	評価																																																																																																																																				
授業がわかりやすい	68.1%	69.4%	+1.3	改善																																																																																																																																				
いじめ対応への信頼	66.4%	67.6%	+1.2	改善																																																																																																																																				
入学してよかった	72.8%	74.7%	+1.9	改善																																																																																																																																				
進路情報提供	81.2%	78.6%	-2.6	高水準維持（微減）																																																																																																																																				
資格取得支援	64.7%	63.4%	-1.3	横ばい																																																																																																																																				
学校が楽しい	79.9%	78.9%	-1.0	横ばい																																																																																																																																				
項目	R6	R7	増減	評価																																																																																																																																				
生活・規範教育	64.6%	70.5%	+5.9	大幅改善																																																																																																																																				
教育活動の努力	67.7%	73.4%	+5.7	大幅改善																																																																																																																																				
行事参加機会	63.2%	67.9%	+4.7	改善																																																																																																																																				
いじめ対応への信頼	52.5%	56.4%	+3.9	改善																																																																																																																																				
入学させてよかった	83.7%	85.2%	+1.5	高水準																																																																																																																																				
授業がわかりやすい	63.0	63.4	+0.4	実質横ばい（低水準）																																																																																																																																				
子どもは学校が楽しいと言っている	78.7%	77.3%	-1.4	高水準維持（微減）																																																																																																																																				
項目	R6	R7	増減	評価（解釈）																																																																																																																																				
日常的な話し合い	75.0	60.6	-14.4	回答数増に伴う揺れ																																																																																																																																				
相互理解・信頼関係	33.3	42.4	+9.1	改善																																																																																																																																				
評価→計画活用	41.7	36.3	-5.4	横ばい																																																																																																																																				
カウンセリングマインド	37.5	45.5	+8.0	改善																																																																																																																																				
進路きめ細か指導	81.3	77.3	-4.0	高水準維持																																																																																																																																				
分掌連携	33.3	28.8	-4.5	横ばい																																																																																																																																				
組織的生徒対応体制	37.5	56.1	+18.6	大幅改善																																																																																																																																				
情報周知	52.1	60.6	+8.5	改善																																																																																																																																				
授業工夫	60.4	66.7	+6.3	改善																																																																																																																																				
ICT活用	62.5	56.1	-6.4	横ばい																																																																																																																																				
職場相談関係	47.9	42.5	-5.4	横ばい																																																																																																																																				